

正しく知ろう！マイコプラズマ感染症ver.2

2024/10/10 院長

Q1.マイコプラズマにかかると大変ですか？

A.全然そんなことはありません。マイコプラズマにかかると90%くらいの人は風邪症状で終わるため、特別な検査も治療も必要ありません。症状が軽ければ医療機関を受診する必要もありません。残りの10%くらいの人だけが肺炎になると言われています。

Q2.マイコプラズマ肺炎になったら治療は必要ですか？

A.軽い場合は抗生剤治療しなくても自然治癒します。マイコプラズマ菌そのものには強い毒性はありません。患者さん自身の過剰な免疫応答が重症化の要因となることがあります。

Q3.マイコプラズマが心配なので簡単に検査できますか？

A.インフルエンザやコロナの検査と同じような抗原検査はいろいろありますが、感度（病気にかかっているときに陽性と診断できる確率）が非常に低く、20%台のものもあります。そうするとマイコプラズマにかかっている人の80%を陰性と診断することになり、正しい診断よりも誤診の確率が高くなるため当院では行っていません。

Q4.マイコプラズマはどうやって正しく診断するのですか？

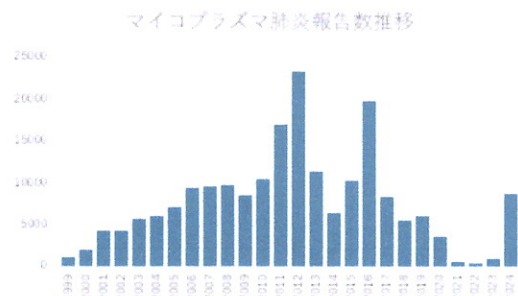
A.LAMP法と呼ばれるPCR検査に似た方法が迅速検査としては唯一有用ですが、大病院等一部の医療機関でしか行えません。血液検査もありますが、急性期と回復期（発症後1ヶ月後位）に2回測定して初めて診断可能となるため迅速検査ではありません。実は正しく診断することが非常に難しい感染症ですが、割と”マイコプラズマに私がかかったことがあります”という患者さんは多いですね。検査しないでマイコプラズマの診断はできません。我々医療従事者は症状だけで安易に”マイコプラズマ”ですねと診断することのないようにしないといけません。

Q5.マイコプラズマにかかった場合何日間学校や職場を休まないといけないですか？

A.マイコプラズマ肺炎が5類感染症ですので、肺炎でなければいわゆる風邪扱いとなりますので特別な決まりはありません。肺炎だったとしても同様です。風邪症状で体調が悪い時はステイホーム（自宅療養）が原則です。咳があれば1週間程度はマスク着用が良いでしょう。

Q6.今（R6/9月末現在）マイコプラズマ肺炎は大流行しているの？

A.右図のようにコロナ3年間は他の感染症同様に患者数は激減していましたが今年は徐々に増えてきました。右図のように過去25年の中では現在8700人で第10位くらいです。今のペースで行くと過去5位以内くらいにはなりそうです。ちなみに今年度の現在までの感染者数は手足口病で約46万人、溶連菌性咽頭炎は約40万人と桁が違います。過度に心配するのはやめましょう。



(国立感染症研究所のデータから院長作図)